

阪急・東宝の創設者 小林一三の旧邸を記念館としてオープン



展示室

財団法人逸翁美術館（大阪府池田市）は、4月22日、阪急電鉄、阪急百貨店、東宝の創業者である小林一三（1873-1957）の旧邸（雅俗山荘）を、『小林一三記念館』としてオープンしました。

逸翁美術館は、1957年の開館以来、雅俗山荘を展示の場として小林一三が蒐集した絵画や陶磁器などの美術工芸品約5,500点を公開してきましたが、2009年10月に同美術館と蒐集品を雅俗山荘の近くに移設。折しも雅俗山荘や茶室などが国の有形文化財指定を受けたのを機に、それらを当時の状態に復元して再び公開するにいたったものです。



展示室

小林一三といえば、鉄道事業のほか、沿線の宅地開発や宝塚歌劇、映画などを成功させた歴史に残る起業家。記念館では、その生い立ちやさまざまな事業の軌跡、政界への進出など、一般にあまり知られていない活躍も含めて当時の資料や写真、映像、ジオラマなどで紹介されています。茶人としての逸翁（小林一三の雅号）が丹精した茶室や庭園を散策したり、併設のレストランでは当時の空間を肌で感じながらランチやディナーも楽しめます。

写真提供：財団法人逸翁美術館（3点とも）



外観

小林一三記念館

大阪府池田市建石町7-17 TEL.072-751-3865

開館10：30～16：30（入館受付は16：00まで）

※月曜、年末年始休館（但し月曜が祝日、振替休日の場合は開館、火曜休館）

入館料：300円（美術館共通券：1,000円）

レストランにつきましてはお問い合わせください。TEL.072-751-1333

都会の中で古式に則った民俗行事 住吉大社「御田植神事」

神官（右）より早苗を授かる植女（左）



住吉大社（大阪市住吉区）で6月14日、穀物が豊かに育ち、稲穂が実る秋を迎えるための儀式『御田植神事』が行われました。田植え行事は全国各地で行われていますが、なかでも住吉大社は古式に則った格式を守り、華やかで盛大に行っている祭りとして、重要無形民俗文化財に指定されています。

住吉大社の御田植神事は、神功皇后が田んぼを設け、御田を作らせたのが始まりとされ、植え付けられる苗には、強力な穀霊が宿ると考えられています。植女（うえめ）や稚児など、行事に関わる人はお祓いを受け、第一本宮で神事の奉告祭を行った後、行列を整えて御田へ。中央舞台や御田の周囲では、田や苗に宿る穀物の力を増すといわれる舞や、総勢200人による無形文化財の住吉踊りなども繰り広げられ、多くの見物人を楽しませました。

大阪21世紀協会では、この伝統祭事を支援しています。



御田植風景